

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100247		
法人名	医療法人岡仁会		
事業所名	グループホームきょうりつ		
所在地	大分県大分市大字奥田30-1		
自己評価作成日	平成27年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100247&amp;SCD=320&amp;PCD=44">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100247&amp;SCD=320&amp;PCD=44</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	平成27年10月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、90代の方が7割で要介護度平均3.0となり高齢化が進んでいますが、病院の建て替えにより、リハビリも充実し機能維持、向上に努めています。なお、医療的な基盤である母体の大分共立病院と連携し、より安心して生活出来るように支援してきます。地域との関係作りについては、地域の保育園、子供会活動、中学校の職場体験等で交流しています。また、入居者様が以前利用していた地域の八百屋さんやお米屋さん、スーパーなどで配達や買い物を通し地域の方や知人との交流の機会を作っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の病院が隣接しており、医療との連携体制が確立しているとともに、運営推進会議には病院の管理者の出席もあり病院と事業所の連携を感じ、何より心強く、安心と信頼感が家族との関係構築に繋がっています。職員は、日々のケアの実践から得た気づきを「気づきシート」に記録し、職員自らが吟味しながら事業所全体の共有へと高め、理念の実現に向けて一丸となって取り組んでいます。事業所は認知症ケアには地域ぐるみの取り組みが不可欠であるとの認識を全職員が共有しており、行政等と連携し事業所の重要な活動の一つとして、地域の認知症理解の啓発プログラムとして「勉強会」を開催しており地域貢献に尽力しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、職員会議で理念を復唱している。職員全員が理念を実践に繋がられるよう玄関、事務所及び職員控え室に掲示している。	「笑顔、真心、尊重」を基本理念とする中で、地域密着型サービスの意義をふまえ、地域に根差した温かみのある介護を目指し、熱意を持って取り組んでいます。管理者と職員は、理念の重要性を語り合い、実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園との交流、自治会や子供会行事への参加、小中学生の体験学習の受け入れを行っている。	地域との関わりを深めるために、地域住民がホームに気軽に立ち寄られる環境作りとして、日常的な挨拶や声掛けを積極的に行っており今後も継続するとともに、地域の方との勉強会(認知症の理解等)を行うなど地域貢献に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年恒例勉強会を実施している。今回は、地域包括支援センターの協力で第5回の勉強会を行った。11月にも第6回勉強会を行う予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を行っており、そこで頂いた意見については、迅速に取り組み次の運営推進会議で経過報告を行なっている。	2か月毎に開催されており、各分野の委員、複数の家族の参加があり、事業所の現状報告や意見交換が行われています。会議を通じてケアサービスへの反映だけでなく、行政と委員とのパイプ役としての役目も担い、雑談の中からも提案を見い出しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修に積極的に参加している。	運営推進会議の案内や、介護保険申請等で市役所を訪れる際に、事業所の実情等、状況発信する中で、市主催の研修の参加や、担当者とのコミュニケーションを大切に、行政との協働関係を構築しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市の助言もありカンファレンスを定期的に行いご家族にも理解を得ている。日中は施錠せず夜間のみ玄関の施錠をしている。	「身体拘束廃止委員会」を立ち上げ身体拘束マニュアルを基本に研修を行い心身に及ぼす抑圧感や弊害、ダメージを全職員が理解し共有しています。現在例外的に1名の方がベッド柵を使用していますが、職員は利用者の人権を守り、適切な対応を取っています。	会議や内外研修等で身体拘束、虐待について勉強会を行い、職員の意識の向上に努めており、更なる継続を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員が、研修で高齢者虐待防止について学び、グループ会議で研修報告をして職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講座を管理者が受講して全職員に周知し制度を活用できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者がおこなっており十分に説明し、納得された上で署名・捺印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、ご家族に意見や要望を聞くようにしている。また運営推進会議に出席して頂き発言の場を設け、意見や要望をできる限り反映するように努めている。	利用者の思いや意見は、日常会話や所作の見守り等で把握に努め、家族とは面会時や運営推進会議等を利用し、話しやすい雰囲気作りで多くの意見、要望をケアに活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、業務改善の投函箱を設置し毎月のグループ会議でその意見については検討し反映させている。	事業所の運営や重要な決定事項は、現場を良く知る職員の意見や考えを反映させ、働く意欲の向上と質の確保に努めています。管理者は日々のケアに入り、職員とのコミュニケーションを図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会及び資格習得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加させスキルアップが出来る様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県小規模介護ネットワークに入会し、認知 症関係の研修に参加し多職種との交流を通して学びの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面会している。又ご家族や担当ケアマネを通して情報収集を行い、よい支援が出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接調査時にご本人及びご家族の要望や意見を聞き対応している。またご家族からの要望が出やすいように関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で、ご本人にとってどのようなサービスが必要かを、ご家族を含めて話し合い当事業所以外のサービス内容についても説明し提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする物を生活の中から引き出し役割を持って頂くことで生活のリズムを作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、こまめに連絡を行い意見や要望を聞き取り面会時には、近況報告を行い共に支援していく関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら入居前の地域の方との交流を絶やさない様にしている。また、可能な限り定期的に外出している。	利用者の昔馴染みの人や場所の関係を家族の情報等で把握し、利用者の希望に応じた取り組みを行う中で、家族の協力で外出し馴染みの店での買い物やドライブに行ったり、知人が隣接する病院の受診帰りに面会に訪れたり、馴染みの関係継続が積極的に行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やホールで過ごす際の場所を考慮している。また、両ユニットの交流が深まるように、「歌の会」を開いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、入居者への支援内容や注意点等の情報提供を行っている。ご家族様より経過報告や相談を受けたり施設にご本人とご家族が来所することも。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は、本人に直接聞くようにしている。本人より聞き取りが困難な場合は日々の関りの中で、想いや意向の把握に努めている。また、家族の思いや意向も参考にしている。	高齢化、重度化傾向にある中、利用者一人ひとりに寄り添い、その時々状況や背景を探り、会話の中で思いを引き出したり、家族から情報を得ながら支援に繋がっています。職員は気づきシートや介護記録等で情報の共有を行っています。	利用者の思い、家族の要望等に真摯に向き合い支援に繋がっています。今後のケアのステップアップに向け、一人ひとりの状態に合った個別レク等の工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ情報の外、入所前に直接本人やご家族に生活歴や生活環境など聞く様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察し心身状態の把握に努めている。全職員が入居者様の現病歴を把握し入居者様一人ひとりの心身状態に合わせバイタルチェックを行う様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が、現状やその方の思い等の情報を気づきシートにあげ、問題点やサービス内容の変更追加をし、ケアプランの原案を作成している。	家族の訪問時や、遠方の家族には生活・医療についての意見や要望を聞き、アセスメント、モニタリングを繰り返し、職員の気づきや観察結果等を参考に介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活記録に日常の様子を記入し、情報を共有するように努めている。また、バイタル測定・食事摂取量・排泄は、個別ケア表等で入居者様の心身の状況を把握する様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、ケアマネからの情報を通してこれまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、参加者の皆様から地域の情報を頂いており、地域の回覧板を回して頂くなどして情報収集している。また、ボランティアの受け入れを行い、地域の方との交流が図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医への受診を基本とし、ご本人・家族の希望に沿った医療機関への受診を心がけている。	通院や受診は、基本的に家族にお願いし、医療機関へ職員が事前に情報を提供し、受診後は家族からの情報は「申し送りノート」や、申し送り時に3日間行い、情報の共有が図れています。家族が対応出来ない場合は、職員が行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士より、入居者様の状態について、その都度、報告・連絡・相談が在り、看護師より適切な指示が出されている。また、隣接している母体医療機関の看護師とも密に連絡を取り協力関係を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の看護師及び、MSWと連携し情報収集に努めている。また、医療機関へ管理者及び看護師が出向き、直接本人の情報収集を行い、ご家族とも話し合いながら、退院時の受け入れがスムーズに出来る様に、環境整備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前に看取りについて家族の要望や意見を聞いている。また、急変の際は直ぐに対応出来るように医療機関とも密に連携を図り対応している。	職員、家族も事業所の方針の説明を受け、理解していますが、医療行為が必要な状態になった場合は入院となることが多く、終末期のケアを行った事例はありません。病院が母体であり医療機関との連携が迅速に行えることに、家族は安心しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。ノロ対策については、定期的な訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行なっている。災害時マニュアルの見直しを行い風水害マニュアルを作成した。また入居者様には災害時に備えて各自リュックを準備して頂いている。	各自に必要な非常時の備品を入れたリュックが玄関に備えられています。消火器を毎日掃除することで、全員が消火器の設置場所を把握しており、防災に対しての意識が表れています。	法人内での連携が図れ協力も仰げていますが、地域住民の参加・協力体制の中での訓練を行い、今まで以上に安全な避難訓練が行われ、自然災害に対しての訓練の実施を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月一回の職員会議にて、言葉使いを始めプライバシーや尊厳について意識を高めるように指導している。また、法人主催の接遇マナー研修に全員参加している。	呼称は、苗字のさん付けで呼ぶように徹底されており、ことば遣いや態度も尊重した対応をしています。笑顔を意識し敬意をはらったケアを意識し行っています。	研修は良く開催されていますが、各自が日常の行動や発言を振り返り、他者からの評価で自覚する為に、自己評価などを行い、なお一層深く尊重とプライバシーの確保に取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、入居者様のペースを大事にするように心がけている。また、出来る限り”開かれた質問”を行う様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは作っているが、ご本人の意志を尊重し、無理強いするようなことなく、本人のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個人個人の好みにお任せしている。家族の希望がある場合は、ご本人に納得して頂いてから、着用して頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを伝え食事に楽しみを持ってもらい一緒に食べ会話を楽しみながら食事している。後片付けも出来る方には、お手伝いをお願いし一緒にこなしている。	法人からの配食ですが、炊飯と汁物は各ユニットで作っています。月に2回はおやつ作りを行い、出来る手伝いをさせていただきながら、食への関心を図っています。食事の時間はテレビを消し、懐メロを聴きながら、職員と一緒に会話を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態に応じた食事形態(ミキサー食・キザミ食・トロミ等)を用意しバランス良く摂取出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者様が口腔ケアを行っている。また、協力期間の歯科医の指導の下、その方に合った個別支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。	トイレでの排泄を目指し、全職員で取り組んでいます。夜間もオムツ対応にすることなく、ポータブルトイレに誘導しています。トイレ誘導も、各自に合わせて行い、サインや訴えた時に、随時対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別ケア表にて、入居者様の排便リズムを把握し、なるべく下剤を使用しないように運動を取り入れたり、ヨーグルトや果物を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一週間に基本三回となっているが入居者様の汚染時には、臨機応変に対応している。	身体状況に合わせて、リフト浴を行い、身体への負担を考慮しています。入浴拒否時は、無理強いすることなく、時間や人を変えるなどし納得してから入浴して頂いています。かけ流しにて、利用者には好評で満足して頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間、就寝時間は、入居者様の習慣や体調に合わせて、見守りを中心に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬当番を決め全職員が携わり周知徹底出来る様に努めている。また、薬品説明書を一冊のファイルにし、全職員が確認、把握でき、服薬については、飲み込み確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるような、仕事を頼み感謝の言葉をつたえるようにしている。また、日々の中でその人に沿った楽しみを見つけるように職員同士で情報共有に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外周散歩を行なっている。施設で対応困難な場合は家族の協力を得てできる限り希望が叶うように支援している。	外に出ようとする行為を静止することなく、一緒に歩くなどして対応しています。近隣のドラッグストアと一緒に買い物に行ったり、外食や外出行事に家族やボランティアの協力を仰ぎ、定期的に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて自己管理できる方と出来ないかたと分かれるが、入居者様の希望に沿えるように職員が同行し、買い物に行くように支援している。なお毎月、ご家族に収支をお知らせしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、職員の支援が必要な方には、職員が個々に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をこまめに行い、気持ちよく使用できるように支援を行っている。季節が感じられるよう、その季節に合ったものを入居者様と作ったり、飾ったりしている。	季節感を感じる飾り付けや、生花が飾られている中で、自由に各自の心地良い居場所です。それぞれの時間を過ごしています。居間の日当たりも良く、一日の時間の流れが感じられ、行事での思い出の写真は、見やすいように拡大して掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファの位置や食事のテーブル席など、それぞれの人間関係を考えて決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたタンスやテレビなど好みの物を持参して頂いている。ご家族との写真を見えるところに飾り、居心地の良い空間になるようにご家族の協力も仰いでいる。	ベット・タンスは据え置きされていますが、配置は各自の身体状況や持ち込みの品物によって自由に行われ、装飾品や写真も飾られており、個性が見受けられる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂・トイレ・廊下などには、手すりを設置し自立歩行の安定を図っている。また居室は状態や状況に応じて家具やベットの配置変更を行なっている。		